

## 第5学年 国語科学習指導案

### 1 単元名 「たずねびと」(全11時間 本時11時間目)

### 2 単元目標

- 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。
- ◎人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。

### 3 「ひびき合う三の丸の子どもたち」をめざすための指導の工夫

研究課題 「子どもたちが解決したい課題をもち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」  
手だて・・・子どもの思いや願いを見とった単元構想と授業づくり  
ブロックテーマ・・・「仲間への理解、自立する自分」  
仲間を理解しつつ、自分の思いも大切にする姿  
新しい価値観にふれ、自分を再構築する姿

年度初めの「ひびき合い」の朝会の後、どんな聴き方を目指していきたいかということを確認した。「最後まで聴いて、反応しよう」を目指して、うなずきながら聴くこと、話している人の方を向くことなど、具体的な行動を決め、7月まで重点的に取り組んだ。9月からは、話すことを意識している。クラスで決めた目指す姿は、「勇気を出して、相手に伝わるように話そう」である。友達と交流するときにノートやプリントを見せるだけで終わらせる様子が見られたので、声に出して交流することを意識するように声をかけている。

少人数グループや気の合う友達とは、自然に相談したり、教え合ったりする姿が見られる。関わる人を特定の友達から広げていくために、教師が条件や目的を明確にした交流をしてきた。例えば、「教室を自由に歩いて、2人以上と交流する。」を条件にしたり、「自分の考えと似ている人、そうではない人を見つける。」を目的にしたりした。自分では思いつかなかった考え方に会えることなどを実感し、交流や話し合いに前向きに取り組む姿も見られるようになった。

全体で話し合うとき、答えが1つになる話し合いだと「〇〇さんに似ていて」や「今出た意見とは違うんですが」といった話し合いをつなぐ言葉が出やすい。一方、正解は一つではない話し合いになると、自分の考えを言うことだけで満足してしまい、考えの広がりや深まりには至らないことがある。友達の考えと自分の考えを比べて聴いたことによる素直な反応である「そういう考えもあるのか」や、「自分とは違うな」といった児童のつぶやきを良さとして共有するようにしている。

### 4 単元と指導について

〈単元について〉

本単元は、学習指導要領では第5学年、知識及び技能(1)ク「比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。」、思考力、判断力、表現力等C読むこと(1)エ「人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。」に関連している。物語などの全体像は、登場人物や場面設定、個々の叙述などを基に、その世界や人物像を豊かに想像することで捉えられる。「何が書かれているか」という内容面だけでなく、「どのように描かれているか」という表現面にも着目して読むことが、物語などの全体像をイメージすることにつながる。

戦争を主たる題材とした教材という面では、3年下巻「ちいちゃんのかげおくり」、4年上巻「一つの花」に連なる。大きな違いは、本教材が現代を生きる11歳の「綾」が戦争に向き合うことである。場面の移り変わりとともに登場人物の変化を捉えたり、登場人物や物語について考えをもったりするなど、これまでの学習経験をいかすことができる。

### <指導について>

本単元では読後感について話し合うことを通して、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることを目指す。具体的には、本時において「この物語の結末は+か-か？」について話し合うことを通して、自分の考えが変化あるいは強化、あるいは統合する姿を話し合いや最後の自分自身のまとめとしてノートに書く作業を通してできるようにしたい。本単元は読後感から学習がはじまっているので、「川の描写」などの表現の工夫や中心人物の心情にふれながら読後感について考えることができていると考える。

戦争教材は読み手の読後感が分かれやすく、また個人の中でも変化がしやすいものだと考える。例えば4年生教材の『一つの花』は、「最後に平和になってよかった」と思う人もいれば、「お父さんが亡くなってかわいそう」と思う人もいる。また、自分なりに詳しく読み解いていく中で、「はじめはかわいそうと思ったけど、一つの花がいっぱいのお花になったのだからよかった」と考えが変化する人もいる。「たずねびと」も、読み手の読後感が分かれやすく、また個人の中でも変化がしやすい傾向があると思われる。「たずねびと」の主人公の「綾」は児童と同年代の少女である。児童は必然的に「綾」と自分を重ねて読んでいくことが考えられるため、「綾」と一緒に原爆や戦争が何をもたらすのかを知ったり、現代に生きる自分たちとの関わりを考えたりできるようにしたい。このような教材の特性を活かす方法として、読後感(一文にしたもの)を用いて、子ども同士の考えのズレを生み、「話し合いたい!」という展開をねらっていく。以上のことから、前時にそれまで学習したことをもとにもう一

度読後感を書き、本時では『たずねびと』の読後感はいくつなのか、プラスなのか、マイナスなのか?」を全体で話し合うこと

で、自分の考えが深まったり、広がったり、変化したりする姿をひびき合いの姿としたい。

5 単元構想

5年国語科「たずねびと」 全9時間—本時—8時間目 全11時間 本時 11時間目

単元目標	◎文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。
	○人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。

・別の作品で読む力の指導  
『銀色の裏地』

・登場人物・中心人物・きっかけ・対人物・心情の変化・主題など

文章を音読したり朗読したりしている。(知識・技能) [朗読・記述]

関心をもつ  
戦争についてどんなこと知っている？

関心をもつ  
同姓同名の人がいたら気になる？

★題名読み

…誰かを探す？訪ねてくる？

『たずねびと』を読んで読後感を一文で書き、話し合う ①②③

+ 感動した、少しすっきり

+ アヤさんがみつかってよかった

- 死んでしまっってかわいそう

- 怖い、切ない、悲しい、恐ろしい

+とーで読後感のズレがうまれる

☆この物語の結末は+か？-か？

みんなの考えの理由を聴きたい。

・ICTを使って全員の考えが一目でわかるようにする。(全体での話し合いの補助として)

・比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。(知識・技能) [発言・記述]

・「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(思考・表現・判断)

くわしく読んで研究しよう③

学習計画を立てよう④

研究の順序を決めて、見通しをもとう

(1) 場面ごとに気持ちを読み取る

(2) 原爆について知る

(3) もう一度、みんなと考えを共有する

子どもたちで決めた順序で 場面ごとに物語を読み解いていく ④⑤⑥⑦ ⑤～⑨

(1) 場面1～4：ポスターが気になる (自分と同じ名前・年齢)

場面5, 6：原爆の現実を知る

場面7, 8：おばあさんとの会話で主人公の気持ちが変わる

(2) おばあさんのような人が実際にいたらしい

**ア<きっかけ>**  
・どのセリフあるいは行動が。中心人物に大きな影響を与えたのか？(1時間)

**イ<対人物>**  
・中心人物に影響を与えた対人物は？  
(1時間)

**ウ<はじめとおわり>**  
・中心人物のはじめとおわりの心情とは？  
(1時間)

**エ<登場人物>**  
・なくてはならない登場人物とは？  
(1時間)

・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(思考・表現・判断) [発言・記述]

(あらためて) この物語の結末は+とーのどちらだと思おう？ ⑧

(3) 読後感はマイナスなのか、プラスなのか？⑩⑪ (本時)

+おばあさんが言っていた想いを綾が引き継いだと思う

「よかったね」と言ってくれたから

+戦争をしらなかった綾が平和についての想いを強くできたから

-きれいだった川が赤く見えるようになって悲しいから

にたくさんの人がいて

-戦争でたくさんの人がなくなって悲しいから

④⑤⑥⑦⑧⑨で読み取ったことにより考えが深まったり広がったりすることをねらいたい

話し合いによりさらに考えが深まったり広がったりすることをねらいたい

・友達の考えを聞き、自分の考えに取り入れたり、自分の考えを広げたりしようとしている。(主体的に学習に取り組む態度) [発言・観察]



主題はなんだと思う? ⑨

積極的に意見や感想を共有し、学習の見通しをもって物語の魅力を伝え合おうとしている。(主体的に学習に取り組む態度) [発言・記述]

- なくなった人たちを忘れないこと
- 現代の私たちが戦争を起こさないようにすること
- 戦争ではたくさんの人たちがなくなってしまう

6 本時について

本時目標 これまでの学習をふまえて読後感について話し合い、さらに考えを深めたり広げたりすることができる。

学習活動		主な支援・留意点 ◆評価【観点】
<p>★振り返り</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>マイナス</p> <p>ネームプレート</p> <p>広島は大きな被害を受けた</p> <p>悲しかった、悲しい</p> </div> <div style="width: 30%; text-align: center;"> <p>どちらともいえる</p> <p>怖いけれど、感動した</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>プラス</p> <p>ネームプレート</p> <p>綾がすっきりしてよかった</p> <p>アヤのことを見つけれられてよかった</p> <p>綾がアヤのことを忘れないでほしい</p> </div> </div> <hr/> <p>・最初は不思議がっていたけれど、最後に気持ちが悪くなくなったから。</p> <p>・おばあちゃんに「この楠木アヤちゃんの夢やら」と言ってもらえたから。</p> <p>・被爆者のおばあさんが綾に「忘れないでほしい」と言っていたから。</p> <p>・アヤちゃんを忘れないという責任感もあるが、実際に十四万人も亡くなったから。</p> <p>・供養塔に入らなかった人もいるから。</p> <p>・一発の爆弾で大勢の人が亡くなるから。</p> <p>・川にびっしり人が浮いてしまうことになったから。</p>	<p>◎「たずねびと」の読後感はマイナスなのか、プラスなのか?</p> <p>・前は、これまでの学習をふまえてもう一度読後感を考えた。単元の初めに書いた読後感から変化があった児童もいれば、変わらない児童もいる。</p> <p>・話し合う前にネームプレートを黒板に貼り、自分の読後感を全体に共有するきっかけにする。ネームプレートは、話し合いの途中や最後に動かせる時間をとる。</p> <p>・話し合いの最後には、ノートに一人ひとりが振り返り(自分の考えが変わった・変わらなかった+理由)を書く。</p> <p>★焦点化のポイント</p> <p>・最初に読後感を書いたときにはマイナスが多かったのに、なぜプラスが増えたのか。</p> <p>◆学習をふまえてもう一度考えた読後感を共有し、さらに考えを深めたり広げたりしている。【思考・判断・表現】(発言・ノート)</p>	

7 実践を終えて

単元構想を考えるときに、児童が「話し合いたい」という気持ちを自然にもつことができるようにするにはどうすればよいかを学年で話し合った。物語を一度読んだ後に、考え方や理由、言葉や文章の捉え方にずれがあることで「話し合いたい」という気持ちをもつことができるのではないかと考え、どんなずれが想定できるかを中心に単元構想を作り上げていった。「たずねびと」の学習が実際に始まると、本時の学習問題に大きな変更はなかったが、本時に至るまでに物語の構造や内容を把握する部分は児童の思考や反応に合わせて変更した。想定よりも、児童が原爆の被害について詳しく知りたいと思ったこと、これまでの物語の学習をいかして場面ごとに読むことを意識していることを単元構想に反映した。

## 本時における成果と課題

### ○本時の学習問題が児童にとって話し合いたい問題だったこと

児童の考え方や理由にずれのあった、単元の最初と同じ学習問題にすることで児童にとって話し合いたい問題だったと考えられる。同じ「プラス」という捉えでも、根拠になる部分に違いがあるため、「自分も意見を言おう」という気持ちをもつことができた。

### ○話し合いの中でひびき合いが見られたこと

意見を言ったり、友達の考えに反応したりする中心人物がいることで、周りを巻き込んでいく良い雰囲気が見られた。全体の場では、なかなか自分の考えを表現することが難しい児童がいる実態をふまえ、ペアトークやネームプレートによる意思表示を話し合いの中に取り入れた。他にも、児童は前時に自分の考えをノートに書いておくことで、考えを整理したり、もう一度考えたりする余裕があった。教師としても、事前に児童の考えを把握しておくことで意図的に指名することができた。

話し合いの中で児童の考えに出てきた「不思議」という言葉について教師が「どういう不思議だったのか」と児童に問い返した部分が、本時における教師の出どころだったと考える。「不思議」という言葉に込められた思いについて全体で考えることにつながった。

話し合いの後にもう一度自分の考えをノートに書く時間をとると、マイナスからプラスに考えが変化した児童や、同じ考えでも根拠になる文章を変えたり、付け加えたりする児童がいた。「○○さんの考えを聴いて～」というように、友達の名前を書く児童もいた。

### △単元の終わり方

単元の最初と最後に同じ学習問題について考え、児童の様子から主題をまとめずに単元が終わった。しかし、読後感では児童の考え方にばらつきが大きいため、主題をまとめ学級全体で共有するところまで進めたかった。または、本時の終わりに教師から児童に「この話を一文でまとめると？」と問いかけることもできたと考えられる。授業や単元の終わり方については課題が残った。

